

第3回名寄市上下水道事業経営審議会 主な質疑・意見等

1. 委員からの質疑等

問 水道事業の施設整備の課題として、老朽管更新は計画よりどのくらい先送りされているのか

答

・名寄・風連あわせて管渠延長 253Kmのうち、40年経過しているのが 63km
・耐用年数 40年も次から次と経過していく
・年平均で 3kmほど更新しているが、4kmほど老朽管となるので追いつかない状態。
お金があれば追い越すこともできるが、急ぎたいが遅れてはいる

2. 委員からの意見等

①施設の老朽化も借金も課題を後回しにしても後の世代が苦勞するので現状を回避しなくてはならない

②料金改定には賛成

③支出を減らすことは現在の状況では厳しいので収入を増やすしかなく、利用者が負担していくべき。

(周知・説明・情報公開)

④-1 料金上がることの理由づけをしっかりと市民に理解をえるべき

④-2 広報は必要

④-3 ホームページ等にこの資料だしていけば情報公開もすすむ

④-4 地方の水道事業特有の課題等についても、利用者にお知らせしていく (以下4点)

・人口3万人を超えたときに必要なインフラを整備して、遠くにいる人にも水をおくる。人のいないところも水をおくる非効率な事業である。

・都市部は人も張り付いている。地理的な不利益を抱えながら水道の普及率を上げていかななくてはならなかった。

・財産はたくさんもっている。施設は人口が減れば小さくなるものではないので、かけるお金も減らすことができない

・企業会計だが、人事権、人件費は市職員と同じ。企業会計とはいっても、会社経営のように人事などができない

(市に対する意見等)

⑤料金回収率をあげ、赤字をださないように計画をしてもらいたい

⑥納付している人に不公平感がないよう未納対策をしっかりとってもらいたい

⑦料金改定となるとどれだけ節約しているのかも見せていく

(節水についての認識)

⑧-1 水道料金を上げるためには、単価を上げるか、使用水量を増やすかである。使用水量を上げるのと節水についてどう考えていくべきか

- ⑧-2 学校の教育は節水。下水処理場も水を流しっぱなしでは処理場も大変だしお金もかかるので、水は大切にしようとは子供に教えている
- ⑧-3 できるだけお金を使わないというのは水道だけではなく、市民感覚としては根付いているものなので、水を使いましょうという PR は難しいのではないかな。
- ⑨料金上がると未納者も増えてしまうのではないかな

3. 事務局からの追加説明

①滞納対策について

- ・未納対策の現状としては、督促、催告の他、電話かけなど顔が見える対応をしている
- ・99%に近い収納率となっている
- ・滞納額は横ばいと、滞納者も固定化している
- ・ライフラインなので話しあいをしながら対応している
- ・平成 26 年度消費税改定では前年より 0.1%収納率向上している

②節水について

- ・利用者が意識しなくても、洗濯機が従来より水を使わずにきれいに洗えるなど、機器が節水になっている。利用拡大してもらいたいですが、社会常識として水資源と考えると節水すべきとなる。